

実装トンネルの種類

	鉄作乙第4375型 ・甲型（仮）	乙型	1号型・ 新中間型	1号型壁直	特1号型	2号型	複線型
							
ファイル名	kou_	otsu_	1go_	（製作予定）	（製作予定）	2go_	huku_
高さ / 幅[m]	4.63 / 4.57	5.62 / 4.83	5.09 / 4.72	5.09 / 4.72	5.34 / 4.74	4.63 / 4.57	6.38 / 8.54
同梱テクスチャ	レンガ	レンガ・コンクリ	コンクリ			コンクリ	コンクリ
使用時期	明治31年～昭和初期	大正5年～昭和初期	大正後期～		昭和30年代～	昭和4年～	大正6年～
概要	【鉄作乙第4375型】 明治31年制定。 【甲型】大正5年制定。 北海道・四国・軽便 線で使用。	大正5年制定。甲型以 外の場所で使用。	【中間型】大正11年制定。甲型のうち800 m以上のトンネルで使用。 【新中間型】大正14年制定。中間型の改良。 【1号型】昭和4年制定。直流電化区間もし くは将来電化予定の区間で使用。	交流電化路線用に1号 型を基本として断面 を広くしたもの。		昭和4年制定。 非電化区間用。	大正6年制定。 複線トンネル用。
補足注意	2号型断面流用					曲線断面未製作	曲線・交流型断面 未製作

※中間型および3号型（簡易線用）の制作予定はありません。
※甲型はいずれちゃんとした断面のを作りたい。

BVEでの使用方法

BVE内構文でのトンネルの構成



利用のヒント等

- 名前に「esc」が付随したファイルは待避所です。あくまでテクスチャで再現したのみで立体化はしていません。また、小型待避所のみ再現しています。
小型待避所の間隔は1級線で20mおき、2級線で30mおき、3級線以下で40mおきとされています。
- 曲線用のトンネル断面を制作していないため、カーブのあるトンネルでは少々窮屈に感じることがあります。また、車両ストラクチャを走らせた際に建築限界が怪しくなることがあります。
曲線用断面は設置がややこしくなるため今後制作予定はありません。
- あくまで国鉄系の標準断面ですので、路線によっては標準断面からずれたものも多く存在します。特に甲型は建設した私鉄によって規格が微妙に違いますし、電化による改築で更に形が変わっている場所も多いです。あくまでもそれっぽいを選べば充分かと思います。